

北海道聖書学院 2022年度 1学期(4/13~7/7) 聴講のための授業案内

曜日	科目名	講師・教師	授業内容
火曜日	ギリシャ語文法①	小澤和男師	火曜日と金曜日に学びます。ギリシャ語で書かれている新約聖書原典を読むために、基礎的な文法を学びます。多くの時間と努力を要する学びですが、原典に接することで得られる恵みは計り知ることができません。
	キリスト教史①	川崎憲久師	「知識もなしに言い分を述べて、摂理を暗くするこの者はだれか。」(ヨブ記38:2) 歴史を知ることを通して神の摂理に対する信仰の目が養われます。
	旧約聖書緒論	ウィッドマー師	旧約聖書をどのように読むのか?この講義では、旧約聖書正典とテキストの特徴を理解し、クリスチャンの観点から解釈します。また様々な批判的研究方法を紹介し、それらを批判します。
	新約聖書神学	小澤和男師	この学びでは、聖書のことばにこだわりながら、深く考察し、私たちのうちに聖書のことばを豊かに住まわすことを目指します。(コロサイ3:16) クラスで新約聖書の中で使われる「ことば」を調べ、神学的テーマを深く考えながら、正確な理解を目指します。
水曜日	文章論	込堂一博師	本クラスではキリスト教信仰(牧会・宣教)における文章の重要性を認識し、文章作成の姿勢や文章作成能力の向上を目的とします。そのためにクラスでは一方的講義ではなく、実際に文章を書くことを通して学びます。
	旧約聖書通論①	吉田浩二師	創世記から小預言書までを3学期かけて学びます。各書を自分で読むことができるようになる「鍵」をお渡ししたいと思います。
	教会論(15週)	松元 潤師	私たちクリスチャンは「教会」に所属しながら、教会に関して誤解や混乱したままに教会生活を送っているかもしれません。その原因を知った上で、教会とは何かを問い直しつつ教会生活や諸活動について学びます。(3-4・5-6時限が5回、3-4時限が5回の学びとなります。)
木曜日	組織神学序説(15週)	松元ハンナ師	神学を学ぶ意味、神学的前提などを一緒に考えます。神学することと神のために生きることが統合されていくための本質的な学びです。(1-2・3-4時限が5回、1-2時限が5回の学びとなります。)
	啓示・聖書論(15週)	松元ハンナ師	聖書そのものが何を語っているかを土台に、啓示の意味と価値を学びます。そして学院の授業の柱となっている聖書釈義の前提である聖書の無謬性について共に考え、私たちの聖書観を確認します。(1学期に5回、2学期に10回の学びとなります。)
	聖書解釈学(15週)	吉永光生師	聖書を靈感された誤りなき神のことばと信じていても、その解釈の方法があいまいであれば、神のみこころを正しくすることはできません。そこで、歴史的プロテスタントの方法に従って、字義的・文化的・批評的に聖書の意味を正しく理解する方法を学びます。(1・2・3・4時限が5回、1・2時限が5回の学びとなります。)
	キリスト・贖罪論	水草修治師	このクラスの目標は、キリストにあって、創造と救済と御国の完成の首尾一貫した理解を獲得し、それに基づいて、明快に福音を提示する伝道の実践力を身に着けることです。(5-6時限が5回、3-4・5-6時限が5回の学びとなります。)
金曜日	ギリシャ語文法②	小澤和男師	火曜日の欄参照
	牧会学I(基礎)	竹本邦昭師	牧会とは何か、教会者とはだれか、何を、いかにするのか、「教会」ということばを使う人によって様々な混乱が起きています。このような牧会の現場での混乱、教会の中の痛みを聖書からの解決を求めます。
	旧約聖書神学	ウィッドマー師	旧約神学研究を概観し、旧約主要テーマ(契約・神の宣教・預言・祭司制度など)を取り上げます。またそれらを通してキリストとその働きをどのように理解するべきかを考察します。
土曜日	帰納的聖書研究法	吉田麻希子師	聖書が何を語っているかを観察し、解釈・適用を考える帰納的聖書研究法の実際を学びます。
	新約聖書通論①	吉田麻希子師	新約聖書の各巻の背景を理解し、その内容を把握するための学びです。
	説教理論II	松元 潤師	「説教理論I」の履修者が、講解説教(ビブリカル・プリーチング)の理論と実践の理解をさらに深めること。そのために例題を繰り返行います。

※1 聴講を希望される方は、聴講願書にご記入の上、学院へご提出ください。所属教会の責任者の推薦が必要です。
(聴講願書は、同封いたしました。足りない場合は、コピーしてください。)

※2 聴講料は1科目につき、1学期間15,000円です。3回に分割して納入することもできます。(1ヶ月5,000円×3回)
複数の科目を聴講し、1ヶ月の聴講料が20,000円以上になる場合は、20,000円を超過した分は免除となります。